

## 圏域内の精神保健福祉の状況と対策について

## 1 精神保健福祉の状況

## (1) 精神障害者の状況（表1）

- ・患者数：平成28年末現在把握患者数1,223人。人口万対比219.8（県206.0）。
- ・疾病：①気分障害489人（40.0%） ②統合失調症411人（33.6%）  
①と②で全体の73.6%を占める（図1）。
- ・年齢：各年齢における人口万対比では40～65歳未満が97.0と高い。  
年齢階級別の割合は40歳～65歳未満44.2%（県46.2%）、  
65歳以上26.8%（県：22.7%）（図2）。
- ・福祉サービス：自立支援医療受給者735人（60.0%）、手帳所持者419人（34.3%）

## (2) 精神科医療機関

- ・北部医療圏の精神科外来：新城市民病院 東栄病院（月2回）

表1 東三河北部医療圏の精神障害者の状況

平成28年末（人）

		把握計	率（人口万対比）	① 気分（感情） 障害	② 統合失調症、統合失調型障 害及び妄想性障害	③ 連障害及び身体表現性障害	④ てんかん	⑤ 性精神障害	⑥ ⑥以外の症状を含む器質 ハイマー病型認知症	⑦ 血管性認知症及びアルツ ハイマー病型認知症	⑧ 神及び行動の障害	⑨ その他	⑩ 不明
圏域総数		1,223	219.8	489	411	67	57	48	38	2	92	19	
年齢	20歳未満	42	7.5	4	3	6	3	0	0	0	0	26	0
	20歳～40歳未満	313	56.3	144	81	29	29	3	0	1	25	1	
	40歳～65歳未満	540	97.0	243	201	21	18	13	1	0	31	12	
	65歳以上	328	59.0	98	126	11	7	32	37	1	10	6	
措置入院者		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療保護入院者		76		8	51	1	0	7	3	0	5	1	
自立支援医療（精神通院）患者（単独）		436		242	104	31	34	2	3	0	20	0	
自立支援医療かつ手帳所持者		299		84	150	11	13	11	1	0	22	7	
手帳所持者（単独）		120		11	57	2	2	8	6	0	23	11	
その他		306		144	49	22	8	20	25	0	38	0	

図1 精神障害者 疾病別

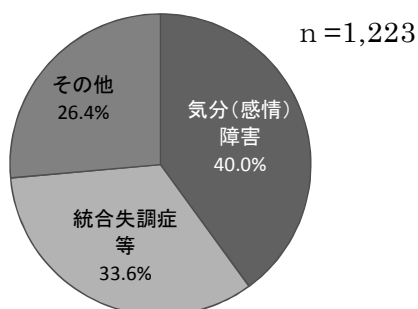
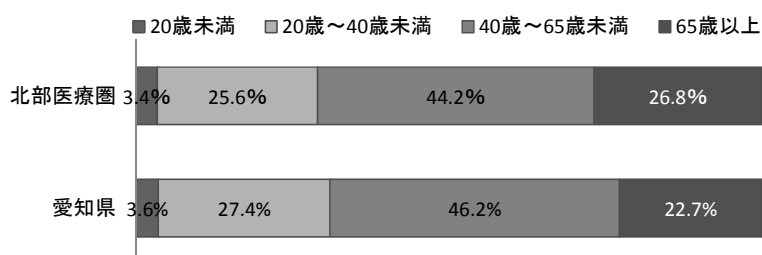


図2 精神障害者 年齢階級別



## 2 精神保健福祉対策

### (1) 申請等に基づき行われる指定医の診察（精神保健福祉法第 27 条）の状況

- ・過去 5 年間の申請等は 28 件（うち警察官通報 21 件）で、うち措置入院者は 5 人。  
5 人の現在の状況は、継続訪問中 3 人、就労支援 B 型事業所利用 1 人、施設入所 1 人。

表 2 通報及び措置診察の状況

	通報受理件数			総数	措置診察の有無		措置入院者数
	警察	検察官	矯正施設		不要	受診	
H24 年度	4	1	0	5	4	1	(1) 注)
H25 年度	9	1	0	10	9	1	1
H26 年度	4	1	0	5	2	3	3
H27 年度	0	0	2	2	2	0	0
H28 年度	4	0	2	6	5	1	1
計	21	3	4	28	22	6	5

注) 措置症状はあったが、実刑のため入院せず

### (2) 精神保健福祉相談

精神保健福祉上の問題やメンタルヘルス全般に関する相談の状況

- ・保健所 精神保健福祉相談員・保健師による相談 …常時  
精神科医師による相談 …月 1 回  
アルコール専門相談 医師による相談 …年 3 回  
(平成 29 年度新規事業) 断酒会等の相談員による酒害相談 …年 3 回
- ・各市町村 保健師等による相談 …常時  
臨床心理士による相談 …こころの健康相談 月 1 回～年 6 回  
相談支援事業所による相談 …随時

表 3 精神保健福祉活動状況(市町村は委託分を含む)

平成 28 年度 (人)

		合計	保健所	市町村計	内訳			
					新城市	設楽町	東栄町	豊根村
電話 面接 相談	実人員	499	127	372	229	113	19	11
	延人員	9,569	895	8,674	7,711	727	93	143
訪問	実人員	322	38	284	149	107	18	10
	延人員	2,801	205	2,596	2,086	291	156	63

### (3) 自殺対策

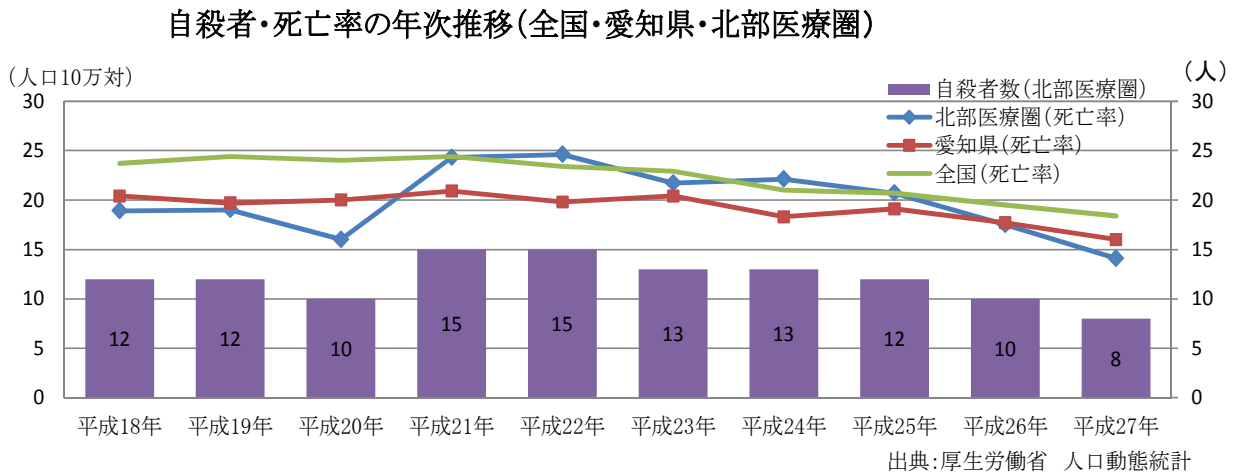
#### ア 自殺の状況

##### (ア) 北部医療圏の自殺者の状況

自殺者数は、平成 18 年以降は、年間 10 人から 15 人程度で推移している。

平成 27 年の自殺死亡率は全国 18.5 であったが、北部医療圏 14.1、愛知県 16.0 と全国よりやや低い状況であった。

図 3 北部医療圏の自殺者数と自殺死亡率の推移(平成 18 年～平成 27 年)



#### イ 28 年度事業実績

##### (ア) 自殺対策相談窓口ネットワーク会議の開催（1回） 参加 15 機関 19 人

北部医療圏の自殺者の状況を共有し、関係機関に地域の支援体制の必要性を理解してもらうことができた。

##### (イ) 自殺防止地域力強化事業

自殺未遂者支援地域連携ワーキングの開催（3回） 参加 14 機関延 49 人

自殺未遂者・自殺念慮を抱く人の支援方法の流れや連携先の役割・つなげ方を関係機関と検討した。その上で、支援方法のイメージ図を作成し、関係機関に配布した。

##### (ウ) 自殺企図者等実態調査

目的：北部医療圏内の新城市民病院、東栄病院に搬送された自殺企図者について、その実態を把握するとともに自殺未遂者への今後の相談体制や関係機関のネットワーク化等について検討する資料とする。

調査期間：平成 25 年度～平成 28 年度（東栄病院は平成 26 年度～平成 28 年度）

調査方法：調査協力機関に搬送された自殺企図者に対して調査票に基づきケースワーカーまたは看護師が聞き取りで実施

結果：28 年度末までに 24 件の聞き取り調査実施

- ・過去の自殺未遂歴あり：9/24 人（37.5%）
- ・精神科受診歴あり：14/24 人（58.3%）
- ・自殺に至った原因等：人間関係 1 人、学校 1 人、経済的問題 3 人、病気 4 人、仕事・就職の悩み 5 人、家族関係 5 人、把握できていない 10 人（重複あり）

- (エ) 事例検討（3回） 参加者延 44 人  
「自殺念慮を抱く事例への支援について」等、事例検討を行った。
- (オ) 人材育成研修  
講演「知って得する！アルコール関連問題とその対応」 参加者 40 人（関係機関等）  
講演「うつ病の基礎知識」 参加者 27 人（一般住民等）
- (カ) うつ病家族教室（1回） 参加者 6 人  
うつ病患者家族の互いの悩みを意見交換する場となった。
- (キ) 普及啓発  
自殺予防街頭啓発キャンペーン等で県民に自殺やうつ病等の正しい理解と心の不調に気づいた時の対応方法等のチラシを配布した。

ウ 29 年度事業計画

- (ア) 自殺対策相談窓口ネットワーク会議の開催（1回）  
平成 30 年 3 月 5 日（月）開催予定
- (イ) 自殺防止地域力強化事業  
自殺未遂者支援地域連携会議の開催（3 回以上）  
自殺未遂者について、医療機関、消防（救急隊）、警察等との連携体制を強化する。
- (ウ) 人材育成研修  
第 1 回 平成 29 年 10 月開催予定  
講演「自殺企図者の心理状態と地域連携支援の必要性（仮）」 関係機関等  
第 2 回 平成 30 年 1 月開催予定  
講演「うつ病の基礎知識（仮）」 一般住民等
- (エ) うつ病家族教室  
平成 29 年 7 月 28 日（金）参加者 6 人
- (オ) 普及啓発  
自殺予防街頭啓発キャンペーン  
平成 29 年 9 月 12 日（火）ピアゴ新城店にて実施予定

(4) ひきこもり対策の状況

ア ひきこもり・不登校の状況

(ア) 北部医療圏のひきこもり相談の状況

表 4 年齢・年度別ひきこもり相談（面接・電話・訪問）件数（新城保健所）

年度		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
実（延）件数		12（92）	8（52）	5（30）	8（78）
年齢別	～19 歳	1	2	1	0
	20～29 歳	4	3	1	3
	30～39 歳	5	2	1	3
	40 歳～	2	1	2	2

(イ) 不登校児童・生徒の状況

表5 北部医療圏の不登校<sup>注)</sup>の状況(学校基本調査による) (人)

		新城市		北設楽郡		愛知県	全国
		実数	出現率(%)	実数	出現率(%)	出現率	出現率
小 学 校	平成25年度	15	0.62	1	0.30	0.46	0.36
	平成26年度	18	0.76	0	—	0.49	0.39
	平成27年度	17	0.78	0	—	0.53	0.42
	平成28年度	17	0.75	0	—	(集計中)	(集計中)
中 学 校	平成25年度	45	3.31	4	1.70	2.99	2.69
	平成26年度	50	3.57	3	1.30	3.14	2.76
	平成27年度	50	3.66	5	2.30	3.26	2.83
	平成28年度	45	3.38	3	1.60	(集計中)	(集計中)

注) 年間30日以上欠席者のうち、不登校傾向の報告者数

イ 28年度事業実績

- (ア) ひきこもり地域継続支援ネットワーク会議の開催(1回) 参加11機関14人  
ひきこもり対策の現状と新城市の不登校・ひきこもりの相談状況について情報共有。  
演習により、参加者がそれぞれの立場で「現状」「課題」「希望」を出し合った。
- (イ) ひきこもり家族のつどい(1回) 参加者7人  
講演「家族の不安や悩みを話してみませんか」
- (ウ) 平成27年度作成の「不登校生徒の中学卒業後相談先」リーフレットを修正し、市内中学校に配布した。

ウ 29年度事業計画

- (ア) ひきこもり地域継続支援ワーキンググループの開催 3回計画  
第1回 平成29年6月7日(水) 参加10機関14人  
昨年度からのひきこもり地域継続支援の流れについて共有。  
今後の目標設定と今年度計画の立案。  
第2、3回 平成29年9月～ アセスメントツールの検討、事例の蓄積等
- (イ) ひきこもり家族教室(1回) 平成29年8月23日(水)

(5) 精神障害者の地域移行・地域定着支援

ア 28年度事業実績

- (ア) 地域移行支援推進ワーキンググループの開催(3回) 参加12機関20人  
精神障害者の地域移行・地域定着支援における地域の課題を共有し、精神障害者の地域移行支援の促進を図った。

- (イ) 精神科医療機関入院患者の実態調査 8医療機関（東三河南部医療圏等）  
 ・精神障害者の地域移行支援を推進することを目的に、北部医療圏に住所を有する精神科病院入院患者の現状について聞き取り調査を行った。

期間：平成28年7月～10月

結果：入院患者95人

性別；男性46人、女性49人

年齢；60歳代34人、70歳代以上37人で60歳以上が74.7%を占める

住所地；新城市65人、設楽町10人、東栄町8人、豊根村2人、その他10人

診断名；統合失調症が68人、気分障害7人、認知症3人、アルコール依存症5人、  
 その他12人

現在の入院形態；医療保護入院49人(51.0%)、任意入院46人(49.0%)

入院期間；1年以内14人、1～5年22人、5～10年18人、10年以上41人

具体的な退院予定；あり3人(3.1%)、なし80人(84.4%)

退院予定先；自宅、公営住宅、グループホーム、高齢者福祉介護施設等  
 (時期未定を含む)

図4 年齢別 n=95

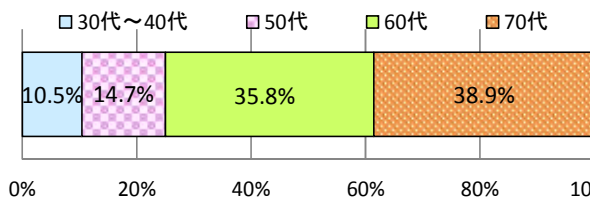


図5 住所地 n=95

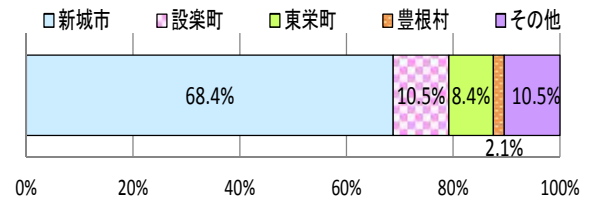


図6 診断名別 n=95

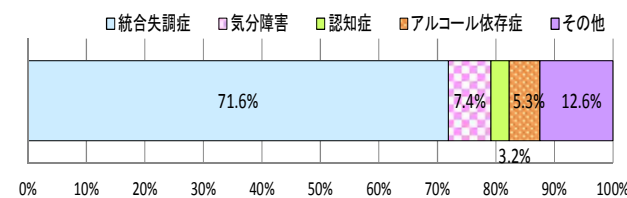
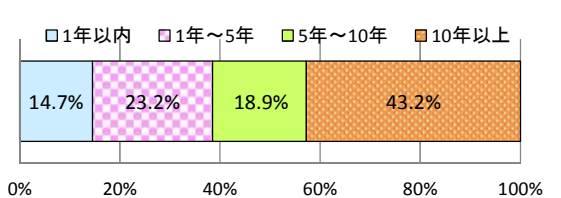


図7 入院期間別 n=95



イ 29年度事業計画

基幹相談センターや相談支援事業所と協力し、相談支援が関わっていた現在入院中の事例等への個別支援を通じて、地域移行・地域定着支援の推進を図る。

(6) 関係機関との連絡会議等

ア 28年度実績

- (ア) 東三河北部医療圏精神保健福祉推進協議会（兼東三河北部医療圏保健医療福祉推進会議）
- (イ) 市町村自立支援協議会(運営会議・部会等)

イ 29年度計画

- (ア) 東三河北部医療圏精神保健福祉推進協議会（兼東三河北部圏域保健医療福祉推進会議）  
 平成29年8月24日（木）開催
- (イ) 市町村自立支援協議会(運営会議・部会等)、個別支援会議